

# 雜 錄      Miscellaneous

## 滿蒙ノまたゝび (其一)

高 橋 基 生



Fig. 1. 高粱＝  
喇嘛塔ヲ配スル  
滿洲國切手

M. TAKAHASHI : Stories and gossips in my journey  
through Manchoukuo (I).

本文ハ筆者ガ昭和八年夏秋滿蒙學術調査團ニ参加シ、主トシテ、熱河地方ヲ旅行シタ紀行文デアツテ、必ズシモ植物ノコトバカリデナク、見テ珍ラシカツタ事、聞イテ面白カツタ事、俗テハ失敗談ニ至ルマデ、氣ノ進ムマ、ニ拾ヒ上ゲルコト、シタ。併シ直接、間接ニ植物ト關係アル事ヲ書ク様ニハ心掛ケタツモリデアル。

七月二十三日、筆者ハ大阪ノ某所デ、別レヲ惜ムタメデハナイガ、以外ニ手間取ツテ、商船鹿島丸ノ甲板ニ行キツイタノガ、出帆前漸ク三十分、氣ヲ揉ンダセイモアラウガ、コ、



Fig. 2. 滿蒙ノまたゝび *Actinidia megalocarpa*  
NAMAI 發見地—熱河省灤平縣長山谷附近

(著者撮影)

連日ノ好天氣ノ事トテ汗ノ根ノ乾ク筈ガナイ。其ノセイカ、隙サヘアレバト、猛ル喉ノ蟲ヲ押ヘツケルノハ並大抵デハナイ。何シロ、同室ノ五人ノ方々ハ皆先輩筋バカリナノデ、普段ノオ行儀ノ惡サヲ、コ、ゾト囁ミシメテ、神妙ニ片隅ニ控ヘテキル。其ノ時「カーテン」ノ半身ヲ引イテ、首ヲ突き出シタノガ、港ヲ渡リ歩ク、「アイスクリーム」屋、「一杯如何デスカ」ト。筆者ハ其ノ鋭イ目ヲ七分三分ニ、先輩筋ヘト輕ク受ケ流シタ。其ノ瞬間氣ガ合ツタモノト思フ。兎ニ角、「テーブル」ノ上ニ置カレタ五ツノ「アイスクリーム」ハ夫々ニツノ手ト一ツノ口トニ依ツテ、其ノ本來ノ使命ニ從ヒ處置サレタコトハ事實デアル。本來ノ使命、ソウダ、ソレハ吾々故國ヲ離レテ海山三千里、異境ニ事ヲ構ヘル者ガ朝

ナタナニ、必ズ口吟ム言葉デアル。ホットー息ツグ暇モナク、ケタマシイ 出帆ノ銅鑼ガ  
鳴ル。老モ若キモ甲板へ。暫シ、或ハ永遠ノ別レヲ惜ム。關西婦人會ノ「ランチ」ガ突堤附  
近迄見送ツテクレル。朝日ノ飛行機ガ門出ヲ盛ニスル。ヤガテ人々ハ興奮ノ餘輩ヲ顔ニ漂  
ハセナガラ夫々ノ船室へ。此處吾々ノ船室。「テーブル」ノ上ニハ「アイスクリーム」ノ雪  
ガ二三滴、イヤニ粘々ト未練氣ニ附イテキル。筆者ハ一番後輩デモアリ、閻魔ノ廳デノ執  
行猶豫ハ確信シテキルモノノ、曾ツテ味ツタ事ノナイ後口ノ惡サデアル。以來「アイスク  
リーム」ハ苦手トナツタ。但シ今デモ、何時カ神戸ノ夏ニ再會シタイモノト念ジテ居ル。  
其ノ夜寢臺ニモグリ込ムト、「アイスクリーム」ト植物トノ關係。何デモ餘程前ノコト、記  
憶シテキルガ、東大醫學部微菌學教室ノ某氏が研究サレタ、「アイスクリーム中ノ細菌ニ就  
イテ」ト云フノデアツタと思フ。「其ノ程度ノ低温デハ大腸菌ハ勿論ノコト、種々ノ病原菌  
モ立派ニ生存シ得ル」トノコト  
デアル。生レテ 始メテノ、「ア  
イスクリーム」デモナイガ波靜  
カナ瀬戸内海上デ胸騒ギガスル  
始末デアル、ソツト首ヲ擧ゲル  
ト、先輩方ハイトモ平氣デ安眠  
中デアル。翌朝靦面ノ下痢、コ  
レガ熱河行、拾數回ノ下痢ノ手  
始メ、否、腹始メデアル。併シ昨  
日貰ツタバカリノ「ビオフェル

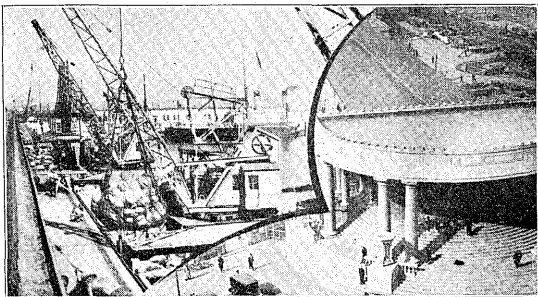


Fig. 3. 大連埠頭ノ壯觀

ミン」ノ一キロ瓶ガ如何ニモ頼シク、「下痢スルノハ惡ガ身ニ染マヌ證據デアル」ト嘯クダ  
ケノ餘裕ヲ殘シテクレタ。

明ケチャラス朝マダキカラ、廊下ヲ行キ交フ足ドリニ、幾度目カノ繼ギ寢ノ夢カラ醒メテ、  
甲板ニ出テ見ルト、都娘ノ川渡リヨロシク、裾カラ漏レル岩膚トデモ、言ツタ感ジノスル  
fresh ナ斷層ヲ露ニ出シタ島々ガ、其處、此處ニ行ク手ヲ塞イデキル。筆者モ旅行好キデ、  
内地デハ瀬戸内海ニシロ、松島ニシロ、矢張り岩膚ヲ出シテキルニ違ナイコトハ知ツテ居  
ルガ、ソナ感ジハ決シテシナイ。言ハバ田植デ鍛ヘタ田舎娘ノ川渡リトシカ思ヘナイ。  
實際、滿洲ノ氣象ト地質ト植生トカラ生レ出ル一種自然ノ雰圍氣デアル。飽クマデ澄ンダ  
「コバルト」色ノ空ト、憎ラシイ程靜カナ藍色ノ海面ト、其處ニ浮ブ煉瓦色ニ冴エタ岩膚  
ト、其ノ上ニ生ヘタ若草ノ綠ノ「ベレイ」帽。コレラノ對照カラ醸シ出サレル特有ノ感ジデ  
アル。コノ感ジハ獨リ大連灣頭ニ立ツタ時バカリデハナイ。海コソナイガ、上陸後モ矢張  
リ内地人ノ目ニハ、澄ミ切ツタ光ノ下ニ立ツ、綠ト赤ノ階調ハ可成リ刺戟的デアル。大連  
在住人ノ某友人ノ話デハ、若葉ノ頃ハ馴レナイ者ニ取ツテハ、正ニ狂人的惱シサデアルソウ  
ナ。

船ガ横着ケニナルト、黒光リニ光ル棧橋ニ、顔モ擧ゲ得ナイデ默々ト動ク赤銅色ノ肉塊  
ガアル。失禮ナ申シ分デハアルガ、苦力ノ働キ振りハソウトシカ言ヒ表セナイ。一ツ八貫



Fig. 4. 四十八貫ノ豆粕ヲ擔グ苦力

目モアル豆粕ヲ六ツ、高々ト重ネテ行ク様ハ、正ニ驚異ノdeal。試ミニ、其ノ豆粕ノ一ツヲ叩イテ見タガ、擔ギ手ト同ジクイトモ鈍重ナ音ヲ立テルニ過ギナイ。北滿ノ果カラ、熱河ノ奥カラ、驢馬ニ、馬車ニ、船ニ、列車ニ、搖ラレ、搖ラレテ、止メ度モ無ク出テ來ル大豆ノ山ヲ見ル時ハ、誰シモガ自分ノ持物デナクトモ、一應當惑セズニ居ラレナイ。飛行船ト取り換ヘタイト、云フ考ヘモ浮ブ筈deal。高粱ト大豆、ソレハ滿洲ノ二大農産物deal事位ハ今日誰知ラヌ者ハナイデアラウ。併シ高粱ハ大部分土民ノ食用ニ供サル、タメ、大豆ノ如キ迫力ハ持テ合セナイ。若シアルトスレバ、生ヒ茂ル高粱畑ヲ通過スル旅人ニ、馬賊ヲ懸念シテ、汗ヲ握ラセル迫力位ノモノデアラウ。

大連ニ住ミ馴レタ白系露人、彼等ハ苦力トハ、意味ガ違フガ、矢張り、沈黙ニ窓ヲ開ケ、閉ヅル生活ヲ送ツテキル人種deal。若シ鰻ガ夢ヲ食ツテ生キテ行ク動物deal

トスレバ、彼等ハ夢ヲ食ツテ生キテ行ク人間deal。日露戦後ニ植林サレタ滿洲黑松ノ苗木ガ細々乍ラ關東州一帯ノ山々ヲ綠ニ染メ始メタ今日、此頃、瘠地ニ喘グ黑松ノ片蔭ヲ占メル、此處、老虎灘ノ露人避暑地ヲ尋ネテ見タ。紹介狀ト、繼ギ剥ギノ英語トラ迎ヘタモ



Fig. 5. 押寄セル大豆ノ山

ノハ思ヒガケナクモ、人ナツコヒ髭面デアル。聞ケバ、彼ハ元「イルクーツク」ノ工業學校ノ先生デアツタトカ。コレハ後デ知ツタ話デアルガ、英語ヲ話ス露人ハ皆、知識階級ト  
思ツテ良イソウデアル。彼ニ案内サレテ、其處、此處ト歩ク道スガラ、入江ノ濕地ニ生ヒ  
茂ルあつけし草ニハ一驚シタ。日本デハ北海道ノ厚岸<sup>アツケシ</sup>、其ノ他ニ僅カ知ラレテキルニ過ギナ  
イガ、此ノ邊ハ一面ノソレデ、少シモ珍ラシイモノデハナイ。支那人ハ若イ内ニ摘ンデ食  
用ニ供スルソウデアル。勿論支那人ノ食用トイフ奴ハ全ク當ニモナラヌモノデ、鼠ノ腹子カ  
ラ、牛ノ何トカ迄、大凡料理ニナラヌ物ハナイトノ話デアルカラ、日本人ノ食用ニスグ用  
ヒラレルカ、否ヤハ、不注意ニモ聞キ漏シタ。餘リ草ノ話ト木ノ話デ、アホ臭クナツタセ  
イカ、彼ハ怪訝ナ顔ヲシテ、私ヲ見詰メル。シカジカト筆者ノ使命ヲ話スト、何ヲ思ツタノ  
カモウ一度、是非立寄ツテクレトノ事。彼ノ兄弟ガ十數年前歐洲ヘ行キ、「スキス」ノ何某

山デ摘ンデ、送ツテクレタ花デ  
アル。革命騒ギニ生死ノ程モ不  
明ナノデ、今ハ片身ト、寫眞ト  
共ニ常ニ持チ歩クトカ。古ビタ  
封筒カラ取り出サレタノハ何  
アラウ、彼ノアルプスノ名花  
Edelweitz 其ノモノデアル。  
日本産ノみやまうすゆき草ヨリ  
ハ花モ見事デアルシ、更ニ「ビ  
ロード」的ナ感ジノスル逸品デ  
アル。十本餘リノ中カラ數本ヲ  
抜イテ、私ノ旅ノ安全ヲ祈ツテ  
クレタ。髭面ノ大男ニ、コノ心

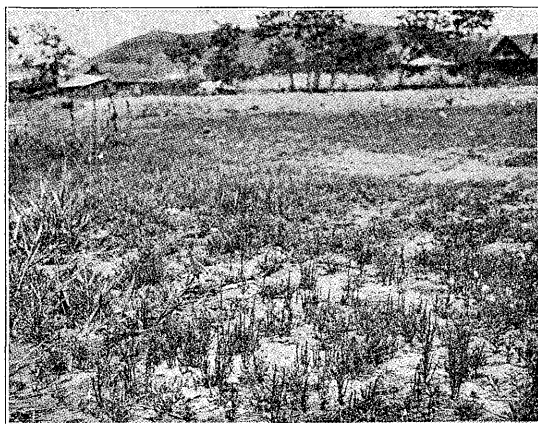


Fig. 6. あつけしさうノ群落 (大賀氏原圖)

ガアラウトハ、今ガ今迄夢ニモ思ハナカツタ。然モ初對面ノ筆者ニ對シテ。固イ握手ノ内  
ニ、「ハルビン」デノ再會ガ約サレタ。歸ル途スガラ、東大生藥教室カラ依頼サレタ、ほそ  
ばひめはぎヲ求メテ、又モ鵜ノ目鷹ノ目デアル。

大連デ最初ノ夢ハ老虎灘ノ入江ニ面シタ去ル旅窓デ結バレタ。蒙滿入りノ第一夜ト云  
フ、何トハナシノ興奮カラ容易ニ寢就カレヌマ、暫ク一人欄干ニ凭ルト、入江ノ兩袖ヲ  
ナス崎ノ黒イ影ト、其ノ間ニ挾マレタ狭イ海面ニ明滅スル漁火ノ底知レヌ魔力ノタメカ、  
忘レヤウトスルソバカラ、素氣ナク離レタ故國ノ空ガ月明リニ青白ク碎クル男波、女波ノタ  
、ズマイニ似タ淡イ哀愁トナツテ、寄セテハ返シ、寄セテハ返スノデアル。宵ノ内、至ツ  
テ靜デアツタノニ、夜更ケテカラ、大連ヲ去ル南ニ一里餘モアル宿ニ、自働車ノ警笛ガ絶  
エナイ。世間知ラズデ、學園ニノミ育ツタ筆者ニハ、老虎灘ノ一夜ハ余リ好印象ノデアツ  
タトハ言ヘナイ。

大連モ小崗子ト言ヘバ、ズツト街ハヅレニ位シテ、一時世間ニ喧傳サレタ、例ノ事件ノ  
沙河口驛ヲ去ルコト程遠クナイ處デアル。此處ハ古着、古道具、半端物、其ノ他滿人相手

ノ芝居、奇術、講釋、遊廓、飲食店等ガ櫛庇シタ薄汚ナイガ、一種ノ慰安所ト言ヘヨウ。又一名泥棒市場トモ言ハレ、大連附近デ紛失シタモノハ「警察ヘ行クヨリ、小崗子ヘ行ケ」ト言フ程、重寶ナ場所デアル。由來支那人ニシロ、滿人ニシロ、拾ツタモノハ天カラノ授リモノト思

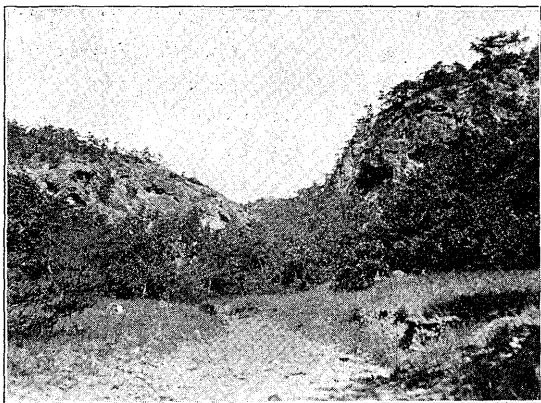


Fig. 7. 滿洲黑松ト蒙古ならノ植林一關東州内  
(著者撮影)

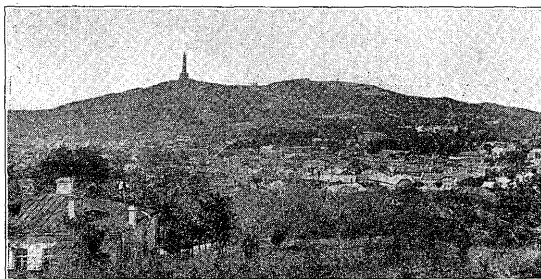


Fig. 8. 旅順市街ヲ下ニ遠ク表忠塔ヲ望ム

ツテ居ルノダカラ、<sup>メイファズ</sup>全ク世話ハナイ。落シタ方デモ、没法子(仕方ガナイ)ト、至ツテサツパリシタモノデアル。又コノ邊デ、例ノ「アイスクリーム」ニ於ケル如ク、下等植物ノ研究デモシタモノナラ、一生失業ノ心配ハ先ヅ以テアルマイト思ハレル。落シ物ナラヌ、細菌ノ注文ハ小崗子ヘト申シ上ゲタイ。連日ノ青天井ハ繪ニデモ描イタ様ニ、今日モ、昨日ト變リツコナシデアル。五風十雨ノ内地ノ空模様トハ何トシテモ違フ。紺碧ノ天涯ニ聳エル、綠モ斑ノ赤褐色ノ岩層、其ノ胸腹ヲメガケテ眞一文字ニ突キ進ムdrive way. ギラギラト黒光リニ光ル「アスファルト」ノ旅大道路。アノ隧道ヲ越セバ、旅順ハ眞下ニ展開スル。ヒタ走りニ走ツテ一時間、途中名ハ忘レタガ、天日製鹽ヲスル鹽田ノ打續ク處ヤ、奇岩、波濤ヲ囁ム絶景ヲ見送り乍ラ、搖ラレ搖ラレル内ニ、コハ數日ノ疲レガ出タノカ、イヅレハ滿洲生レデモアラウ、如何ニモ植民地風トイッタ大柄ナ女車掌ノ朗ラカナ説明ハ大半逸シテシマツタ。隧道ヲ抜ケテ白銀山ノ下リ斜面モ盡キル頃、勢ヒ余ツテ切ツタ急「カーヴ」ノ空滑リデ、ヤツト自分ハ内地ニ居ルノデナイコトヲ再ビ自覺シタ。紋切型ノ如クニ定メラレタ戰跡見物ノ「コース」ニ、道草ノ刺ヲ生シテ、遅々タルモノハ植物班ノ面々デアル。ソコロニハビコル、さねぶとなつめノ枝ニ譬ヘタ人ガアルガ、蓋シ至言デアラウ。オ蔭デ、敵味方モ別タヌ往年ノ勇士ノ白骨ニ目ヲ留メテ、輕ク石ヲ置イテ本道ニ引き返シタノハ、私ノミデハ無カラウト思フ。二〇三高地ガ激戰地デアツタ事ハ誰デモ知ツテキルガ、其ノ地ヲ踏ンダ時一感又深イ者ガアル。筆者ノ滿蒙ノ旅モ未ダ奥ノ細道ニハ程遠イガ、忽チ蕉翁ノ「夏草ヤ兵者<sup>ツハモノ</sup>ドモガ夢ノ跡」ノ一句ガ思ヒ出サザル。英靈ヲ弔フ如ク咲キ揃ツタ、夏草<sup>ツハモノ</sup>ノ群レ、又一群レ。

旅順ノ植物園ヲ主宰スル佐藤氏ハ至ツテ氣ノ良イ人デ、聞ケバ東北秋田ノ産。長ク旅順高女ニ教鞭ヲ執ツテ居リ、滿鐵ノ囑託ヲモ兼ね、滿洲ノ植物ニ造詣深イ事ハ付ケ加ヘル迄モナイ。今デハ往年ノ生徒モ道ヲ擦レ違ヘバ袖デ半バ顔ヲ隠シテ一禮スル年頃ダソウデ、筆者ニモオ世話シヤウト言ツテクレタガ、其ノ御好意ダケハオ拒リスル事トシタ。翌日ハ同氏ノ御案内デ、白銀山ノ植林地ノ育成状態ヲ視察シ、併セテ、土壤試料ヲ採集スル等可成リ疲レ果テ、引返シテ來タガ、夜ハ夜マチヨ、又支那街ノ見物ニ馬車ヲ走ラセルナド、同氏ノ歡待振リハ常人ニハ眞似ノ出來ナイ程眞味ガ籠ツテキテ、兎モスレバ身ノ旅空ニアルモ忘レル位デアッタ。

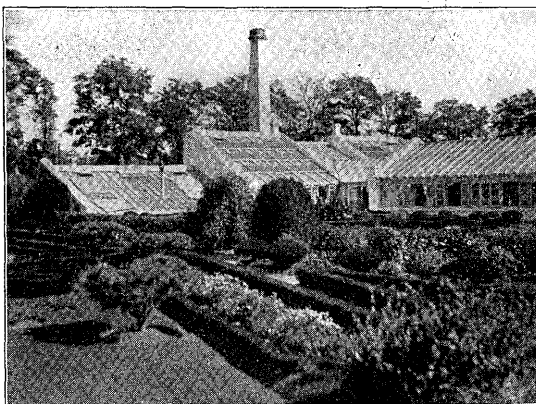


Fig. 9. 露國ノ經營ヲ其ノマ、受ケ繼イダ旅順植物園 (著者撮影)

「内地ノ燕、滿洲ニ渡レバ鳩トナル」ト言ヘバ、知ラナイ人ハ、又例ノ「雀、海ニ入リテ蛤トナル」式ノ支那博物書ノ掘リ出シモノカト思フカモ知レナイガ、決シテソウデハナイ。内地ノ超特急ガ燕デ、滿鐵ノガ鳩デアルトイフニ過ギナイ。内地デハ今日、此頃、科學ノ意地デ貫キ通シタ。丹那「トンネル」ヲ誇ツテキルガ、叟水子カラ新京ニ一條ノ繩ヲ引イタ如キ滿鐵ハ、斷然其ノ無「トンネル」ヲ誇ツテキル。普蘭店ノ驛標ニ、古蓮ノ其ノ後ノ消息ヲ氣ヅカツテ見タガ、驛員



Fig. 10. 曠野ヲ驀進スル滿鐵ノ誇、鳩號

ノ素氣ナイ返事ヲ得タノミデアツタ。大賀氏ノ報告ニヨレバ此ノ古蓮ノ實ハ、明治四十年頃日本人ノ手ニ入ツタモノデ、同驛附近ノ劉家屯ニ古ク周圍四里バカリノ沼ガアツテ、後、乾イテ畑トナリ、其ノ地下ニ生ジタ泥炭層ニ古蓮ノ實ガ含マレ、コレヲ掘リ出シテ蒔ケバ、發芽率モ 100% デアルト言フ。然モ其ノ年代ハ少クトモ四五百年ヲ經過シテ居ルダロウト

ノ事デアル。

近時、日本人ノ手ニヨツテ、益々盛ンニナツタ、果樹の栽培地、特ニ <sup>ピンフアー</sup> 苹果（林檎）ノ多イ州内ヲ出ルト、廣軌ノセイモアラウガ、「カーブ」ノ少イタメモアラウ。内地ヨリハ余程「スピード」ガ出テキルト思フノニ、動搖ハ至ツテ少イ。六尺豊カナ大車輪ヲ唸ラセテ、鐘ヲ鳴ラシツ、大陸ヲ一直線ニ驀進スル姿ハ考ヘテ見ルダケデモ、溜飲ガ下ル氣ガスル。筆者ハ都合デ、大連、奉天間ヲ一回ハ夜行デ、一回ハ鳩號デ、都合ニ往復シタガ、至ツテ心持ガ良カツタ。併シ鐵橋ノ袂ニ築カレタ「コンクリート」ニ銃眼ヲ穿ツタ監視小屋ト、夜行列車デハ必ズ「カーテン」ヲ下シテ、燈光ノ車外ニ漏レヌヤウニスル事ナドハ、内地デハ一寸味ヘナイ凄味デアル。一時「アメリカ」物ノ映画ニ良ク出タ hold up ガ今ニモ闖入スルカノ感ヲ、馴レナイ臆病者ニハ、與ヘハシナイカト思フ。熱河探検ノ勇士トシテハ、義理ニモ「シナイカト思フ」ト言ツテ置キタイノデアル。「ポイント」ノ數ガ朝ノ隙キ腹ニ應ヘル

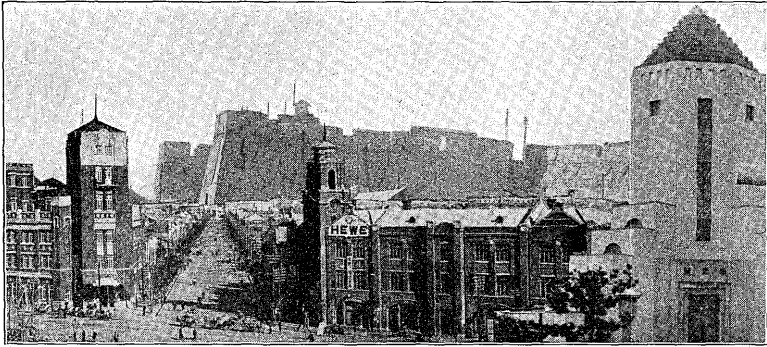


Fig. 11. 遠クハ清朝制覇ノ策源地、近クハ東北政權ノ牙城  
今ハ新五色旗ノ下ニ輝ク、奉天ノ横顔

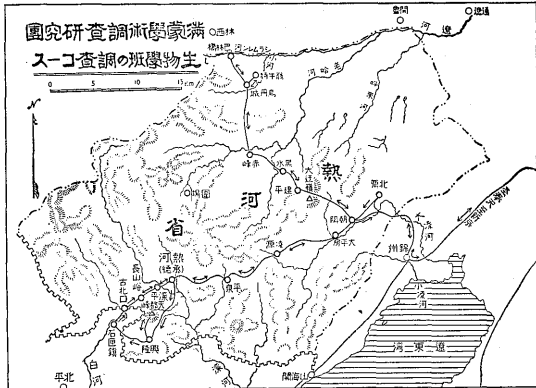
工合デ、ドウヤラ大都市ニ近ズイタ事ニ氣ガ付クツ、クサト、下リ仕度ニ取りカハルト、高級船員トデモ言ツタ凜々シイ服裝ニ威儀ヲ正シタ車掌ガ、助手ヲ伴レテ切符ヲ貰ヒニ來タノニハ、少々慌テ、シマツタ。成程、ソウ言ヘバ大連驛ニモ改札口ガナカツタヤウダ。コレハ後ニ聞イタ話デアルガ、車掌ノ服裝ハ裁判官ノ衣冠束帶ト同一效果ガアルソウデ、言ハバ對滿政策ノ一端ダトノコトデアル。植物ノ本道ヲ離レテ、滿鐵本線ガ支線ニナツタヤウナ事ノミ申シ上ゲタガ、モウツ申シ殘シタ事ハ鳩號ハ15時9分奉天着デ、一體夜ダカ、晝ダカ、内地ノ時間割ヲ見馴レタ者ニハ、一思案モノデアル。

奉天、撫順ノ見物ハ後廻シニシテ、明日ハ愈々鬼ガ出ルカ、蛇ガ出ルカ、熱河ヲ指シテノ門出デアル。何クレト御世話ヲ戴イタ柁井領事ニ驛頭マデ送ラレタ時、出征兵士ノヤウナ一種ノ興奮ヲ握リシメタ。奉山線、コノ鐵道ハツイ先頃迄、戰ヲ運ビ込ミ、運ビ去ツタ軌道デアル。

果シテ、汽車ガ巨流河驛ニ着クト、戰ノ片鱗カ、二名ノ匪賊ラシイノガ、守備隊ノ拾數名ニ高手小手ニ荷造リサレテ送り込マレテ來タ。故國ヲ離レル前、既ニ覺悟ハ決メテ來タ

モノハ、未ダ熱河ニモ這入ラス内カラ、彌ガ上ニモ高潮スル感覺ヲ如何センデアル。興奮シ切ツタ警備兵ノ一人ガ、ヤオラ鯉口ヲ僅ニ切ツテ、「ヤッチャイタイ」等トサ、ヤキ出ス。ドウモ物騒デ聞イテハ居ラレナイ。筆者ハコノ雰圍氣カラ逃レルタメ、昇降口ニ立ツテ、息ヲ抜クコトニシタ。

進ムニ從ツテ刻々ニ展開サレル、コノ邊り 遼河下流一帯ハ、十數日前ニ 襲ツタ大豪雨ノタメ、「チヨコレート」色ニ擴張シタ幅、數哩ノ河床ヲマザマザトサラケ出シテキル。立木ハ芥ヲカラミ、草ハ泥ニマミレテヒレ伏ス等、慘澹タル光景デアル。其ノ一角ニ、未ダ引キヤラヌ水ノ下ニ埋モレタ道ヲ索ルノデモアラウ、馬夫ノ一人ガ荷馬車ヲ牽イテ、シキリニ渡河點ヲアタツテキル。ソノ様子ハ、マルデ、オ家騒動ノ靜マツタ後ニ、コツソリト歸ツテ來タドブ鼠ガ元ノ



古巢ヲ尋ネテキルヤウデアル。コノ附近遼河ノ下流一帯、特ニ白旗カラ營口ニカケテハ、滿洲デモ有名ナ「アルカリ」性土壤地デ、何トシテモ作物ヲ望メナイノデ、大部分ハ未耕地ノマ、放棄サレテキル。一説ニハコノ地方ハ古ク渤海灣ノ大キナ入江デアツテ、遼河ノ冲積作用ニ依ツテ出來上ツタト考ヘラレテキル。イヅレニシロ、コノ廣大ナル地域ヲ占メル冲積層ハ、含有スル多量ノ可溶性鹽類ノタメ、普通ノ植物ノ成育悪ク、耐鹽性ノ強い植物ガ優占シテキル。即、藜科デハ、はままつな、こあかざ、ほそばのはまあかざ、蓼科デハ に

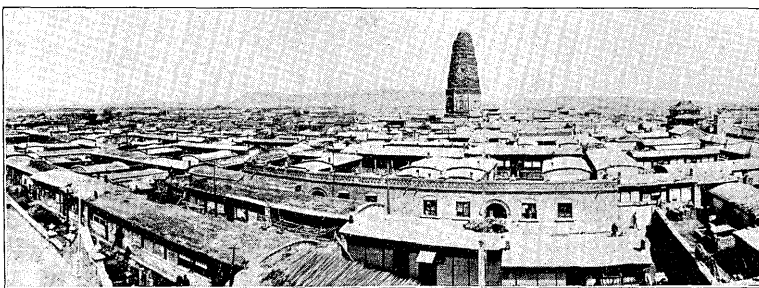


Fig. 12. 錦州ノ喇嘛塔ト市街ノ全景

はやなぎ、さなへたで、やなぎぬかば、菊科デハ、しをん、はまよもぎ、かはらよもぎ、はちじやうな、禾本科デハえのころぐさ、のびえ、うしのしつべい、莎草科デハこじめがやつり、たまがやつり、其ノ他、はまぢさ、かわらけつめい、しながははぎ、めはじき、わ



れもかう等ガ其ノ主ナルモノデアル。

喇嘛ノ白塔ニ朝日ヲ浴ビテ燕ノ飛ビ交フ景物詩ハ、昨日ノ興奮ヲ和ゲルニハ詠ヘ向キノ錦州風景デアル。前日、半日ノ錦州生活ハ、植物ノ古本漁リト、白塔巡リ、ソレニ某氏ニ頼マレタ蒙古種ノ血ヲ引ク猛犬ノ「カメラハンティング」——恰モ、警官ガ尾行サレタ時ノヤウナ格好デ、如何ニモテ臭ササウニ折角ノ卷尾モ尻ニ挟ンデスコスコト退散スルニハ閉口シタ——トニ費シテ、夜ニ入ツテシマツタ。明クレバ目指ス熱河ノ地ニ第一歩ヲ印スル今朝デアル。曆ヲ見ナイコトニハ、八月四日ダトハ思ヒ付カヌ程、何時ノ間ニヤラ自分モ大陸化シテシマツタ。イヤ、ソレハ緊張ニ緊張ヲ余儀ナクサレタ爲カモシレナイ。陸橋ヲ渡ラウトスルト、胸ノ調査圖ノ徽章等ハ、閻魔ノ廳ニ持參シタ善行章程ノ用モシナイ。『早速、「舌ヲ出セ」ナラヌ、入境許可證ノ呈示ヲ迫ラレタ、今考ヘテ見ルト、コノ邊カラ、私モ、持久性緊張症トデモ言ヘバ言ヘル、一種ノ症狀ヲ呈シ始メタノデハナカラウカト思フ。

汽車ハ今ヤ、大カーヴヲ過ギテ、緩カナ上リニサシカ、ツタ。吾々が曾ト箱根越ヘデ經驗シタヤウナー種ノジレツタサヲ身ニ感ジツ、一ツノ高原性ノ地帯ヘト登リツメタ。窓外ノ山々ノ起伏ト言ヒ、草木ノ生ヘ工合ト言ヒ、兎ニ角何カ今迄トハ違ツテ來タナト云フ感ジヲ與ヘル。

サツキカラ最後部ノ装甲車デ白系露人ノ警乗兵ト團ノ警備兵トガ、啞問答ニ賑カナ笑聲ヲ交ヘテ、朗カナ交歓放送ヲヤツテキル。筆者モツイ釣り込マレテ、輕業式ニ危ク装甲車ニ乗り移ツテ見ルト、手似ネ足似ネヨロシク、喇叭ノ吹キツクラヤ、銃ノ操作ナド、武人

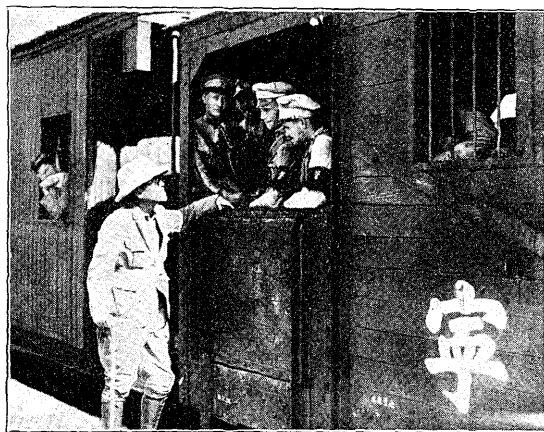


Fig. 13. 白系露人ノ警乗ト貨車ノ客車 (島田氏撮影)

ラシイ戯レニ、熱河ヘノ行程ヲ縮メテキル。筆者ハ老虎灘デノ義度胸カラ、中デノ隊長ラシイノヲ捕ヘテ、英語ノーツニツヲ交ヘテ見ルト、隊員ノ何レモガ帝政華ヤカナリシ頃ノ繪巻物ニハ、或ハ赤々ト燃エタ爐邊ノ搖籠ニ姉娘ニ守ラレテ安ラカニ眠リ、或ハ雪ノ肩衣ニ、紅イ實ヲ房々ト着ケタ一枝ヲ手折ツテ、馬橋ヲ隣人ノ許ニ驅ツタ若人デアツタラシイ。今ハ姉ト別レ、妻ト離レテ、先ノハ紅顏ノ美少年トナリ、後ノハ壯年ヲ稍々下

リカケテ、共ニ淋シク生クベキ道ヲ細々乍ラ北票行ノ軌道ニ載セヤウトハ、神ナラヌ身ノ知ル由モナシデアル。「國亡ビテ山河アリ」亡國ノ民ノ憐レサヲシミジミト感ゼザルヲ得ナイ。

ベイビヤウ

北票行キノ列車ト云ヘバ如何ニモ立派ニ開エルガ、二十數輛ノ内、大部分ハ鐵道用材

其ノ他ノ貨物デ、後ニ申譯のニ二輛ノ客車——ト言ツテモ、貨車ト殆ンド撰フトコロハナク、匪賊ノ目標ニナラヌタメト思ツテ感謝スル外ハナイ、——及ビ件ノ裝甲車ト云ツタ編成振リデアル。鐵道用材モ枕木ガ主デ、近ク開通ノ運ビトナル朝陽線ニ使用サレル物ラシク、イヅレハ吉林アタリカラ伐リ出サレタモノデモアラウ。筆者ハコノ時既ニ熱河ノ地ニハ樹木ガ少イノダナト、豫感シタ。實際奥地ハイザ知ラズ、北票マデノ道スガラ、柳、野榆ノ點

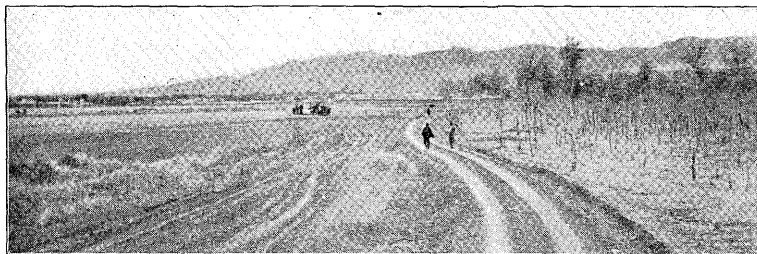


Fig. 14. どろのきノ疎林ヲ右ニ遠ク北票ノ角塔ヲ望ム (著者撮影)

々スル外ニハ木ラシイ木モナク、額山又額山デ、コレデモ松嶺山脈トハ、ト喫驚シタノデアル。

北票!! 北票!! 内地ナレバ聲高カニ驛員ガ終點ヲ呼ブデモアラウガ、コ、熱河ノ表玄關デハ、今、戰塵ノ後始末ト、平和工作ノ準備トニ、灰神樂ヲ揚ゲテキル。北票盆地ノ北東隅ニ聳エル鐵ノ角塔ハ誰モガ知ル如ク、葫蘆島築港ノ防波堤ト共ニ、過ギシ日、學良政權

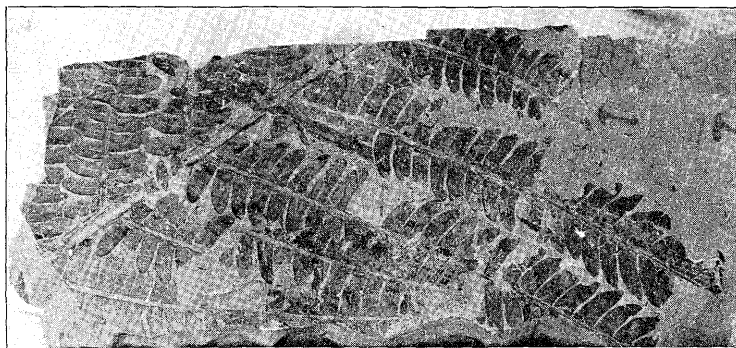


Fig. 15. 北票炭坑産羊齒ノ化石 (著者撮影)

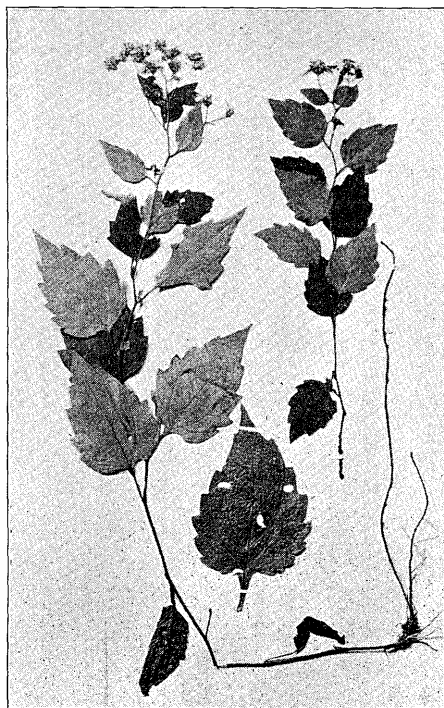
ガ進ンデハ滿鐵ヲ陷レ、退イテハ自己ヲ守ル、矛ト擬シ、盾ト恃ンダ策源地デ、其ノ角塔ノ下、六百尺、地下ヲ潜行スル計畫ト機構ニハ、見學者ノ誰シモガ舌ヲ卷ク構ヘデアルトイフ。ソレモ、ソノ管「熱河ノ撫順」トシテ金ニ飽シテ英人技師ニ一任シ、設備萬端遺漏ナキヲ期シタモノデアル。コノ炭坑カラハ石炭ノ外ニ「スレート」ニ含マレテ、羊齒類其ノ他ノ植物化石ヲ産出スルガ、ソレラハ皆侏羅期ニ屬スルモノダソウデアル。

百度ヲ破ル炎暑ノ強サガ何時果テルトモ判ラヌ内ニ、滿蒙特有ノ赫々タル夕陽ガ山ノ端

ニ掛リ始メタ。墨繪ノ如キ角塔ノ黑影ガ其ノ濃色ヲ進メ始メテモ、一向ニ納マリサウモナイ蒸シ暑サハ、遂ニ夕食モソコソコデ人々ヲ庭前ニ驅リ立テ、シマツタ。見レバ満月モ程近イ月明リニ熱河ノ夜景ハ次第ニ透徹トシテ深マリ行ク。何處カラトモナク一發ノ銃聲、續ケ様ニ二三發ガ跡ヲ追フ。スルト又無氣味ナ靜ケサニ返ツタ。コレカラ二三ヶ月モノ夜ナ夜ナヲ、宵闇ニ跳梁スル惡鬼ニ、任スカト思フト、今更、一刻千金ノ思ヒ耐ヘ難イモノガアル。仲鷹ノ三笠ノ山ニ比ス可ク、筆者ハ撞キ出ス寛永寺ノ鐘ニ迎ヘ送ラレタ上野ノ山ノスバロ歩キガ思ヒ出サレテ、未ダ耳底ニ殘ル棺ガカサコソト鳴ル。フト氣付クト、一陣ノ突風ガ夜目ニモソレト判ル砂ホコリト共ニ、一片ノ白紙ヲ拾ヒ上ゲテ、蒲鉾ナリノ民家ノ屋根モスレズレニ闇ノ中ヘト運ビ去ツタ。(續ク)

### ○秋葉ぎく(北村)清澄ぎく(牧野)

昨 昭和9年 11月 房州大東及ビ清澄山ニ於テ一種ノ *Aster* ラ得タトコロ、謀ラズモ、夫レハ、余ガ 1919年 8月 31日 同國鋸山デ採ツタ無花ノモノト同一デアル事ヲ知ツタノデハ房州ニハ廣ク分布スルモノダト思ツタ。ソレカラ昨年余ガ清澄山ニ上ツタ翌日、牧野先



生モ同山ニ行カレタノデ、先生カ之ヲ如何ニ扱ハレタカ同行ノ理學士原寛氏ニ質シタラ、牧野先生ハきよすみ菊ナル新和名ヲ與ヘラレタトノ事デアツタ。ソコデ、先生ト共謀シテ一新種ニショウト思ツテ居タ矢先ニ、植物分類、地理 第3卷第3號 ガ來タノデ開イテ見タラ北村四郎學士ガ *Aster Sugimotoi* KITAMURA (あきはぎく) ト云フモノヲ書イテ居タノデ、讀ンデ見ルト、房州ノト全ク瓜ニツナノデ早速北村氏ニ照會シタラ同一物ト判ツタ。即北村氏が遠州秋葉山デ採ラレタモノ、及黑澤氏が同國小笠郡デ採集サレ、静岡ノ杉本氏があきはぎくと命名シタモノデアル。其後北村氏ヨリノ通信ニ依レバ、京都大學ニハ故松田定久氏が上總金谷デ採ラレタ標本ガ在ル由、サスレバ本種ハ相當廣ク分布シテ居ルモノデアルト申サレル次第デアル。然ラバ、SAVATIER ノ荒シ廻ツタ三浦半島ニモ何レ見付カルデアラウガ、今迄ハ恐ラクのこんぎくカしらやまぎくと同一物ニサレテ居タモ